

# 学習課題（中学校1年生）



## 【国語】

### <学習内容>

○教科書「星の花が降るころに（P106～113）」について、場面の展開や登場人物の描写、「銀木犀」の役割に着目して読み、この作品の面白さ（工夫されている点）に対する自分の考えをもとう。

### <取り組み方>

- (1) 教科書「星の花が降るころに（P106～113）」音読しよう。
- (2) 作品を四つの場面に分けてみよう。そして、それぞれの場面の「時」「場所」「登場人物」について、分かることを書き出してみよう。
  - ・一行空いている部分に着目してみよう。
- (3) (2)で分けた四つの場面について、次のことに取り組んでみよう。
  - ①「私」の心情がよくわかる表現を探し、その右横に線を引いてみよう。また、「銀木犀」に関わる表現を見つけたら線を引いておこう。
    - ・他の登場人物（戸部君、夏実）の印象や他の登場人物との関係がわかる表現に注目してみよう。
  - ②読み取った「私」の心情の変化をまとめてみよう。
    - ・心情の変化のまとめ方は自由。例えば、「最初は〇〇に対して△△だったが、次第に◆◆に対して□□になっていった。」などと文章でまとめたり、矢印などを用いて図のような形でまとめたり、工夫して取り組んでみよう。
    - ・心情の変化がわかりにくい場合は、心情をいくつかに分類し、例えば、前向きな心情であればプラス(+)、不安などであればマイナス(-)のように分類してみよう。

★「銀木犀」に関わる表現と「私」の心情とのつながりを考えてみることに挑戦してみよう。
- (4) (3)までの内容を踏まえて、この作品の面白さ（工夫されている点）はどのような点か、自分の考えを家の人に説明してみよう。

※(1)～(4)に取り組む中で気付いたことや考えたことについて、取組シートに記録しておこう。  
※(4)について、家の人に伝えるのが、どうしても難しい場合は、目の前に家の人があると想像して、自分の考えを声に出して説明するというだけでもかまいません。

### <学習のヒント>

- (3)「銀木犀」について、次のことを参考にして考えてみよう。

小学3年生で読んだ「モチモチの木」では、主人公の「豆太」にとって「モチモチの木」は、「モチモチの木に灯がともる。」「それは、一人の子どもしか、見ることはできねえ。それも、勇気のある子どもだけだ。」などの表現により、おくびょうな「豆太」を勇気付けることや、「豆太」の勇気を表すという役割を果たしていました。

↓

「星の花が降るころに」では、「私」にとって「銀木犀」はどのような存在でしょうか、どのような役割を果たしているのでしょうか。